

■ラインアップ

モデル名	デスクサイドモデル	エントリーモデル	スタンダードモデル
基本構成			
ユーザーデータ容量	3.3TB	9.0TB	18.0TB
CPUコア	6コア	8コア	20コア
メモリー	96GB	96GB	192GB
ユーザーデータ容量の拡張	不可	可能(オプション)	
運用管理機能	なし	あり(統合システム運用管理JP1を同梱)	
価格(サポート別)	標準価格1,000万円(税別)	個別見積もり	
外形寸法(W×D×H)	254×668×442mm	600×1,125×820mm	
主な利用用途	本格的なシステム導入に向けた検証や評価、開発や試行に	本格的なシステム導入に	より大規模なシステム導入に

■アプリケーションインタフェース(仕様および最大値)

分類	項目	内容
システム関連	システム最大サイズ	1ZB/システム
	表最大サイズ	128EB/表
	DBエリア数	4~1,017
	同時接続数	1~1,024
	処理リアルスレッド数	1~4,096
	疑似スレッド数	1~4,096疑似スレッド/リアルスレッド
DB関連	最大表数	4,096表/システム 200表/DBエリア
	表およびビューの列数	1~1,000
	インデクス種別	B-treeインデクス、レンジインデクス
	最大インデクス数	32/表 8,192/システム 400/DBエリア
SQL関連	SQLサポートレベル	SQL92およびSQL99に準拠
	SQL文長	最大300,000バイト
	スキーマ、表、列、インデクスの名称	最大100バイト
API	JDBC	Type4 JDBCドライバ
	ODBC	ODBC3.0, ODBC3.5
	CLI	C言語API

本仕様はHitachi Advanced Data Binder 02-02における最大値およびアプリケーションインタフェースを抜粋したものです。予告なく変更する可能性があります。最新の仕様は下記の製品情報サイトをご確認ください。

- ・Microsoft, Windows, およびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・TPC-Hは、Transaction Processing Performance Councilの商標です。
- ・記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。



株式会社日立製作所 ITプラットフォーム事業本部は、株式会社日立製作所 情報・通信システム社として環境マネジメントシステムに関する国際規格ISO(国際標準化機構)14001:2004の審査を受け、登録された事業本部です。当事業本部では、製品の開発および製造段階における環境問題に積極的に取り組んでいます。

登録番号: EC02J0400 登録日: 1995年7月19日



安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「ハードウェアオペレーティングマニュアル」、「設備計画書」、「使用上のご注意」をよくお読みください。

- カタログに記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。また、製品写真は出荷時のものと異なる場合があります。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

- 製品情報サイト
<http://www.hitachi.co.jp/data-binder/>
- インターネットでのお問い合わせ
<http://www.hitachi.co.jp/soft/ask/>
- 電話でのお問い合わせは HMCC(日立オープンミドルウェア 問い合わせセンター)へ
☎ 0120-55-0504 利用時間 9:00~12:00, 13:00~17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)
携帯電話、PHS、一部のIP電話など上記フリーダイヤルをご利用いただけない場合は、ダイヤルイン: 044-850-9293 (通話料金はお客様のご負担となります)

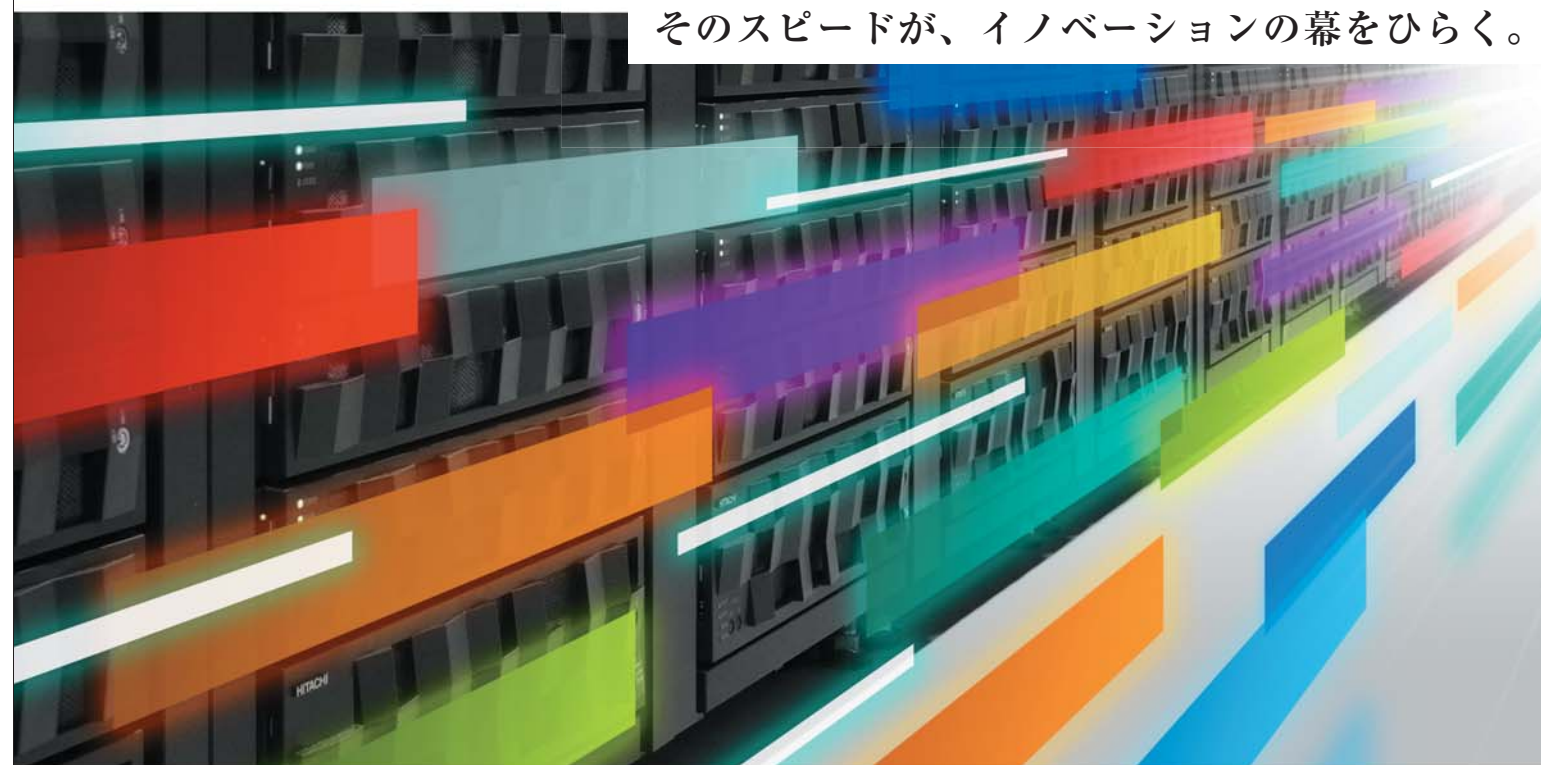
株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 ITプラットフォーム事業本部

高速データアクセス基盤

Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム



そのスピードが、イノベーションの幕をひらく。



“超高速”処理で、見えない価値が見えてくる。

イノベーションの創出には、【事実確認】→【仮説作成】→【仮説検証】というプロセスが必要です。特に、【仮説作成】→【仮説検証】をいかに素早く実行できるかがイノベーション創出のカギとなります。現場の知恵から作成した仮説を、今まで使っていなかったデータの掛け合わせや、既存データの新しい観点での見直しなどにより検証する必要がありますが、これまでのITシステムでは処理スピードの制約でその実行が困難でした。

「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム^{※1}」は、大量データの超高速処理を実現。現場の知恵から作り出した仮説をかつてないスピードで検証でき、新たな価値を生み出すイノベーションの創出を加速させます。

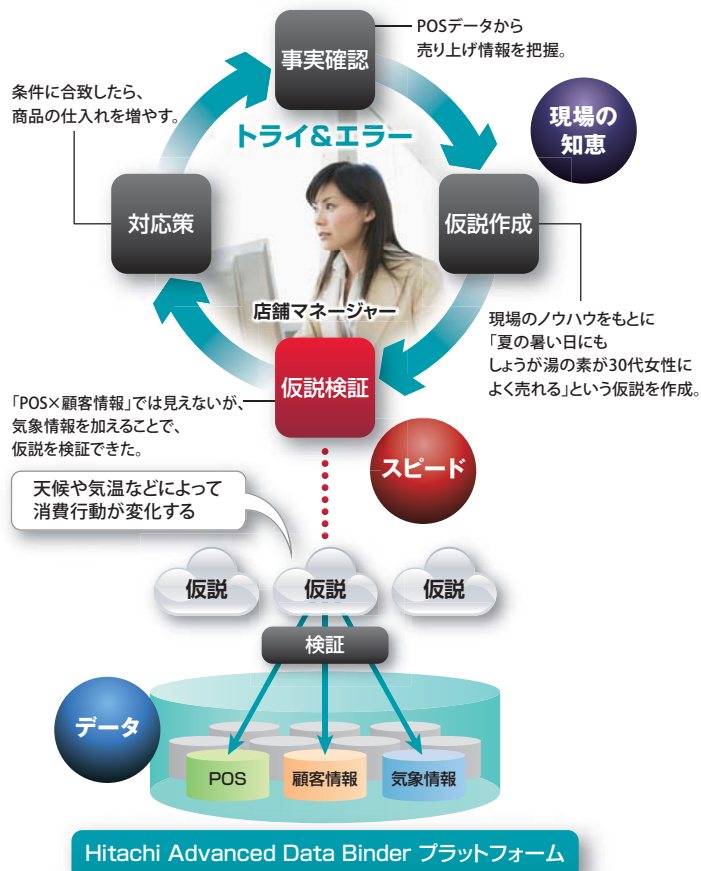
※1 内閣府の最先端研究開発支援プログラム「超巨大データベース時代に向けた最高速データベースエンジンの開発と当該エンジンを核とする戦略的サービスの実証・評価」(中心研究者:喜連川 東大教授/国立情報学研究所所長)の成果を利用。



イノベーション

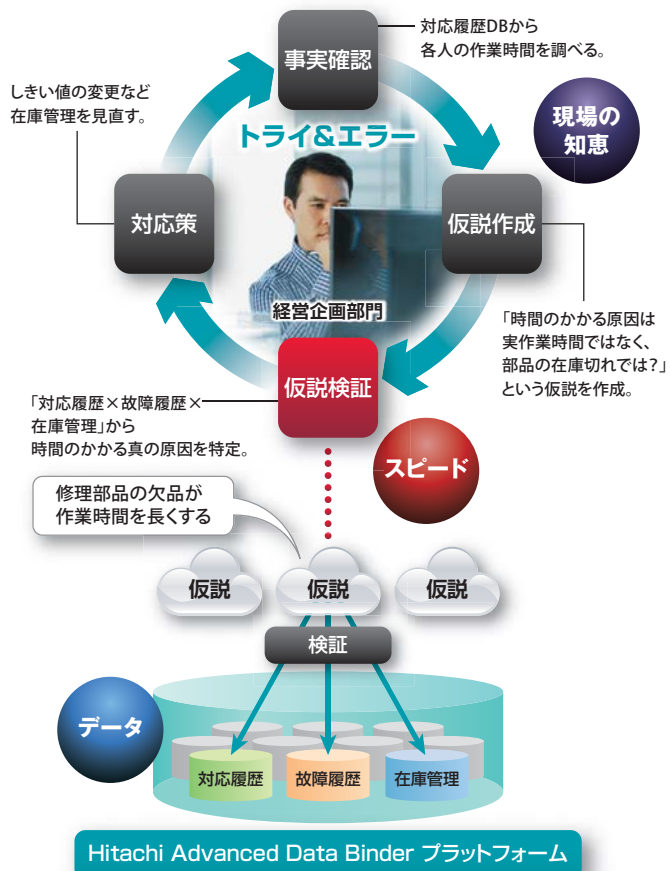
① 使っていなかったデータの活用例 (スーパーマーケット)

課題: 売り上げ向上のため、チャンスロス削減したい



② 既存データの新しい観点での活用例 (OA機器保守)

課題: 顧客満足度向上のため、作業時間を短くしたい



世界初の技術で現場での自由な分析を支援。

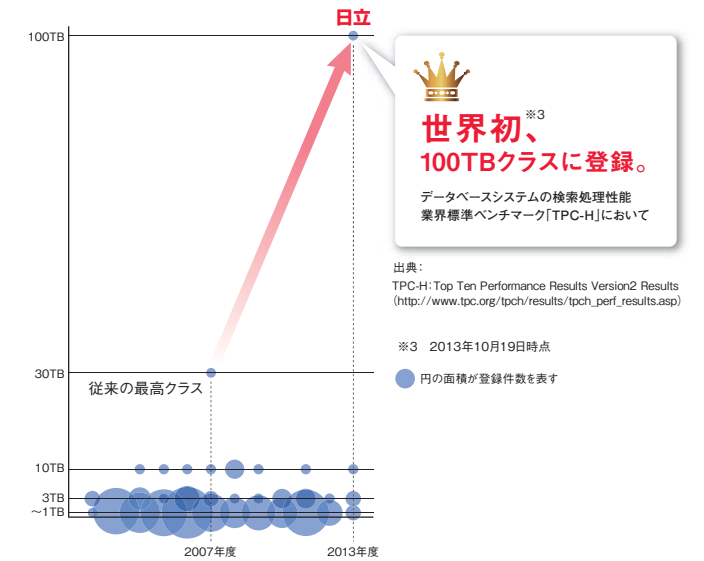
自社従来比約100倍^{※2}の検索性能を実現する画期的な高速データ処理技術

従来は決定的な順序で行われていたデータアクセス処理を並列実行単位に自動分割し、非決定的な処理順序で実行。これにより、I/O発行数が2桁増加して自社従来比約100倍の検索が可能となり、さらにJOIN処理も高速に処理できます。

※2 当社従来製品との比較。解析系データベースに関する標準的なベンチマークを元に作成した、各種データ解析要求の実行性能を計測。データ解析要求の種類によって高速化率には差が見られるが、データベースにおいて特定の条件を満たす一定量のデータを絞り込んで解析を行うデータ解析要求を対象とした結果。

SIノウハウを反映したベストプラクティスモデルを提供

日立が提供する高信頼・高性能なサーバとストレージに、超高速データベースエンジンを搭載。日立のSIノウハウを反映してサイジングした検証済みのモデル「ベストプラクティスモデル」を提供します。デスクサイドモデル、エントリーモデル、スタンダードモデルの3つのモデルを用意しており、用途やシステム規模に応じて選択できます。



導入容易性 クイックスタートが実現できるデスクサイドモデルを用意

部門での適用や、本格適用前の検証や評価、開発や試行にお使いいただけます。ユーザーデータ容量は最大3.3TBです。

拡張容易性 ビジネスの拡大に合わせてフレキシブルにシステムを拡張

エントリーモデルとスタンダードモデルでは、データ量の増加やデータの種類の増加に応じて、段階的にストレージを追加可能。これにより、お客さまのビジネス拡大に合わせて柔軟にシステムを拡張できます。さらに、システムを拡張してもストレージの機能で性能をキープできます。

ベストプラクティスモデル

デスクサイドモデル
検証や評価、開発や試行に



【DBサーバ】
日立アドバンストサーバ
HA8000/TS10-h

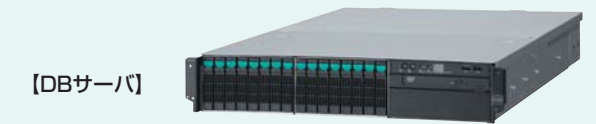
エントリーモデル / **スタンダードモデル**
本格的なシステム導入に / より大規模なシステム導入に



日立サーバ共通の
ハーフラックに搭載して提供。



【管理サーバ】
日立アドバンストサーバ HA8000/RS110
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard
統合システム運用管理 JP1



【DBサーバ】
エントリーモデル:日立アドバンストサーバHA8000/RS220
スタンダードモデル:日立アドバンストサーバHA8000/RS440
Red Hat® Enterprise Linux Server 6
超高速データベースエンジン



【ストレージ】
エントリーモデル:Hitachi Unified Storage 110
スタンダードモデル:Hitachi Unified Storage 130